

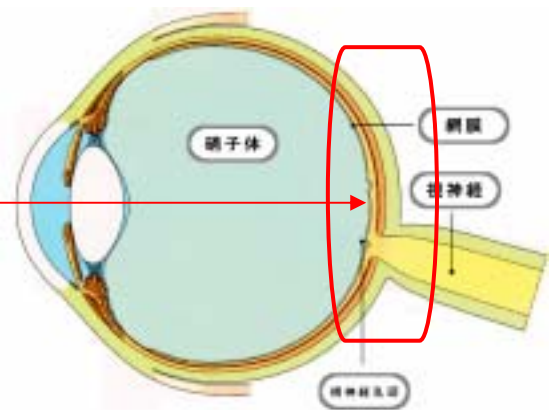
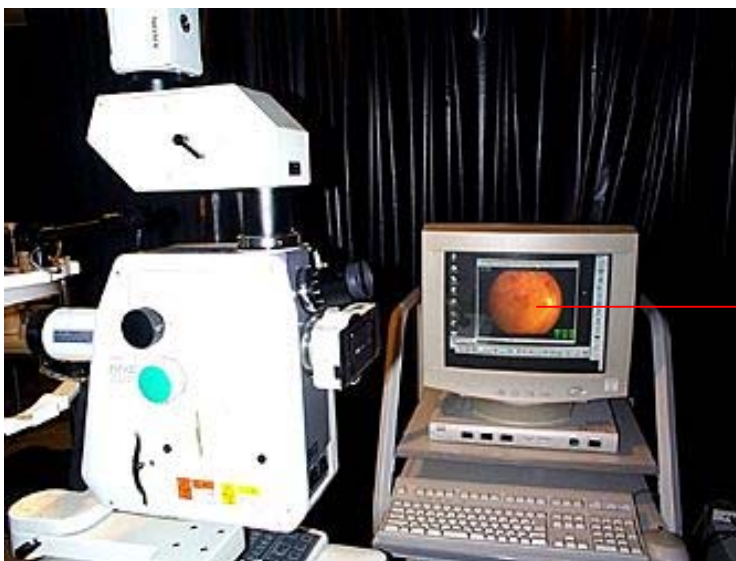
眼底（もうまく網膜、ぶどう膜、しんけいにゅうとう視神経乳頭、しょうたい硝子体）の変化や経過を記録するために必要です。

撮影方法

まず、さんどう散瞳（点眼薬にて瞳を開く）し、普通の写真撮影と殆ど変わりませんが、撮影部位が目の細部のため、顔の位置を固定します。散瞳した黒目から目の奥へ光を当てて撮影するため眩しさを強く感じるかもしれません。疾患によって、撮影する部位や枚数が多少違ってきます。

とうようびょうもうまくしょう糖尿病網膜症では、眼底の全体像を把握するため多めに撮ります。撮影後は、残像が残りますが、10分位で消失します。散瞳しているため瞳が元に戻るまで近くが見づらかったり、眩しさを普段より強く感じる事がありますが、5時間位で元に戻ります。

対象疾患としては、どうみやくこうかしょう糖尿病や動脈硬化症による眼底所見、もうまくしきそへんせいしょう網膜色素変性症、おうはんへんせい黄斑変性、もうまくはくり網膜剥離、りよくないしょう緑内障、しょうたいしゅけつ硝子体出血などがあります。



高機能画像ファイリングシステム VK-2